



三池エリア世界遺産学校給食事業 「とり肉とレバーの石炭みそがらめ」

前途洋々

毎年、実施される世界遺産学校給食のイベント。「明治日本の産業革命遺産三角西港」は、世界遺産登録10周年を迎えます。7月8日（火）の献立は、「豆腐とチンゲン菜のスープ、とり肉とレバーの石炭みそがらめ、ピリ辛きゅうり」でした。この中の「とり肉とレバーの石炭みそがらめ」は、三角西港から外国へ運ばれた「石炭」をイメージしたものです。献立表には、「船や機関車を動かす原動力となった石炭。石炭みそがらめを食べて、元気いっぱい体を動かそう！」と記載されていました。子供たちは、市の教育委員会が作成した動画も視聴し、郷土への理解を深めておいしくいただきました。



7月の学校教育審議員訪問 ～ 1・3年の授業を見ていただきました ～

ほぼ毎月実施されている学校教育審議員による授業訪問。今回は、1・3年の授業を見ていただきました。1年国語では「おおきなかぶ」、3年算数では「重なりに注目して」という単元の授業を見ていただきました。さて、子供たちが毎日宿題として取り組んでいる音読ですが、単に読む力を伸ばすだけでなく、話す力や読み取る力、さらには考える力を伸ばす土台にもなるものです。私の専門教科は英語ですが、授業していた頃、音読は大変重要なものと捉えて指導していました。今回1年生は、「おおきなかぶ」のそれぞれの場面にふさわしい読み方を考え、実際におじいさんになりきって音読するという指導過程を見ていただきました。また、3年においては、教室の実際の入口の高さを、重なっている部分の長さをどう処理するかを考えて求めるという課題が出されました。今回は、図を使って相手にわかりやすく説明することを目指して学習しました。

さて、1年生の授業を覗いてみました。本日の本文は、「おじいさんが、かぶのたねをまきました。『あまいあまいかぶになれ。』『おおきなかぶになれ。』あまい、げんきのよい、とてつもなくおおきいかぶができました。」というところでした。子供たちは、文からおじいさんの気持ちを想像し、おじいさんのお面をつけて楽しそうに読むことができました。次に3年生の授業です。2本の1m定規を使って入口の高さを測ったところ、20cmの重なりがありました。それをどのように式に表して実際の高さを求めるか……。子供たちの作った式には、主に、「 $100 + 100 = 200$ $200 - 20 = 180$ 」と「 $100 - 20 = 80$ $100 + 80 = 180$ 」の2つがありました。答えは同じですが、それぞれどのように考えたか分かりますか？それぞれの式について、相手に頑張って伝えている子供たちでした。

思考の流れが分かる、担任の先生の板書です。

式の意味について、みんなの前で発表します。

おじいさんのお面を付けて音読します！

一人一人が式とその理由を書きます。

